

# いいだ 市議会だより

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

No. **206**

平成29.10.27

**R 80**  
古紙配合率80%紙

第3回定例会開催  
ズバリ市政を問う(一般質問)  
議会による行政評価・提言

②

④ ⑤

⑩

2017年のあなたいへ  
みんなの声が街になる  
市制施行50周年記念



飯田市

1987年10月3日埋設



飯田市制施行80周年記念事業「タイムカプセル開封」  
～30年前からの贈り物～

# 第3回定例会

# 平成28年度決算、平成29年度飯田市一般会計補正予算(第3号)案など41議案を可決、同意、認定

## 定例会のあらまし

第3回定例会を、9月5日から9月28日まで24日間の会期で開催しました。

市長から平成29年度飯田市一般会計補正予算(第3号)案など、41件の議案が上程されました。このうち5件は報告で、3件の人事案件については、本会議で同意しました。そのほかの14件の決算認定案件を含む33件の市長提出議案については、所管の委員会で慎重な審査の後、本会議に諮り、決算については認定し、その他の議案については原案のとおり可決しました。

市長提出議案のほかには、意見書提出に係る議会議案6件を上程し、いずれも可決しました。また、請願4件の審議を行い、委員会審査のとおり採択しました。

一般質問では、18人の議員が市政全般について質問を行いました。これについては、4ページから紹介します。

## 議案に対する質疑と審査

報告案件、人事案件以外の市長提出議案は、総務、社会文教、産業建設の各常任委員会に付託され、集中的に審査しました。

質疑等の内容は、6ページから各常任委員会のページで紹介します。

## 本会議での討論

平成28年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について、本会議で反対の討論がありました。起立採決の結果、各委員長報告のとおり、賛成多数で認定されました。

議案第88号「平成28年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」

## 反対の討論

28年度に積み立てたりニア中央新幹線飯田駅整備基金の財源に「ふるさと寄附金」の1億円が充当されている。しかし、リニア関連事業の応援としての寄附額は2千6百万円余であり、飯田市政全般に対しての寄附の4割を基金積立金に充てることには、疑問を感じる。

また、本基金の総額は17億円余となったが、基金の目標額は不明である。リニア事業によって、駅周辺整備費だけでなく、将来の運営費も計り知れず、実質公債費比率や将来負担比率が悪化する可能性もあり、反対。

## 議会議案の提出

6件の意見書の提出に係る議会議案を議決し、国会又は関係行政庁に意見書を提出しました。

議会議案第4号「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について

**意見書の概要** 市町村が、森林吸収源対策及び担い手の育成等山村対策に主体的に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足していることから、「全国森林環境税」の創設を求める。

議員発議で提出され、全会一致で議決しました。

議会議案第5号 道路整備予算の拡充及び道路整備事業に係る補助率等の嵩上げ措置の継続等を求める意見書の提出について

**意見書の概要** 来年度以降も着実な道路整備を推進するため、道路整備予算の拡充及び道路整備事業に係る補助率等の嵩上げ措置の継続等を求める。

産業建設委員会での審査において、動議の提出、可決を受け、委員会発議で提出され、全会一致で議決しました。

議会議案第6号 地方財政の充実・強化を求め意見書の提出について

**意見書の概要** 国に対し、地方財政の充実・強化を求める意見書を提出願いたい。





定例会（傍聴席）の様子

この件については、総務委員会で審査し、採択した請願第6号に基づき、総務委員会から提出されました。全会一致で議決し、国会及び関係行政庁に意見書を提出しました。

議会議案第7号「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める意見書の提出について

議会議案第8号 国の責任による35人学級の推進及び教育予算の増額を求める意見書の提出について

## 平成28年度飯田市各会計の決算を認定

(単位：千円)

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引	
一 般 会 計	45,651,212	44,588,508	1,062,704	
国民健康保険特別会計	事業勘定	11,707,683	10,934,266	773,417
	直診勘定	4,202	4,200	2
後期高齢者医療特別会計	1,316,459	1,298,762	17,697	
介護保険特別会計	10,858,017	10,726,812	131,205	
地方卸売市場事業特別会計	19,764	19,246	518	
駐車場事業特別会計	83,042	66,125	16,917	
墓地事業特別会計	21,888	21,077	811	
簡易水道事業特別会計	142,991	142,553	438	
介護老人保健施設事業特別会計	728,037	663,906	64,131	
ケーブルテレビ放送事業特別会計	127,292	119,091	8,201	
	13,089,490	14,401,151	△1,311,661	
病院事業会計	収益的収支	12,104,142	12,178,466	△74,324
	資本的収支	985,348	2,222,685	△1,237,337
	2,534,395	2,936,225	△401,830	
水道事業会計	収益的収支	2,210,989	1,968,781	242,208
	資本的収支	323,406	967,444	△644,038
	5,898,717	6,420,168	△521,451	
下水道事業会計	収益的収支	4,682,862	4,014,487	668,375
	資本的収支	1,215,855	2,405,681	△1,189,826
特別会計等の合計	46,531,977	47,753,582	△1,221,605	
合 計	92,183,189	92,342,090	△ 158,901	

市の会計には、基本的な行政運営の経費を経理する一般会計と、特定の行政サービスを提供する経費を経理する特別会計とがあります。特別会計には国民健康保険、介護保険、下水道、水道、病院など12の会計があります。

平成28年度の決算において、一般会計と特別会計を合わせた歳入の合計は、921億8,318万円余、歳出の合計は923億4,209万円余となり、差引き1億5,890万円余の赤字となりました。

議会議案第9号 複式学級の編制基準の改善及び教職員定数増を求める意見書の提出について

以上の3件については、社会文教委員会で審査し、採択した請願第7号から9号に基づき、社会文教委員会から提出されました。全会一致で議決し、国会及び関係行政庁に意見書を提出しました。

同意した人事 (敬称略)

○教育委員会の委員

伊藤 昇

○東野財産区管理委員

久保田 芳輝

○千代財産区管理委員

嶋岡 一藏

# ズバリ 市政を問う!

一般質問とは、市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第3回定例会での一般質問の概要を紹介しましょう。(質問順)

## 議会選出の監査委員を廃止する考えは

吉川 秋利 議員 (会派のぞみ)

**Q** 地方自治法が改正され、「条例で議員のうちから監査委員を選任しないことができる」と規定された。議会から監査委員を選出しない考えはあるか。

**A** 飯田市では、条例で規定する監査委員の定数は3名で、そのうち1名が議会選出の委員となっている。地方自治法の改正後は、議会選出の監査委員について、各地方自治体で判断できるようになる。議員の中から選任しないとするには条例での規定が必要で、趣旨を踏まえながら今後考えていく。

## コミュニティスクールについて

### 小中学校トイレの早期洋式化に向けた対応は

竹村 圭史 議員 (会派のぞみ)

**Q** 市内全ての小中学校のトイレを洋式化と想定しているか。

**A** 工事は、授業に支障を与えない夏休み期間にしか実施できない。また、工事範囲の限定や財源確保の課題などの事情により、平成24年度から緊急性・必要性が高い箇所から順次進めているものの、今後も相当な期間を要すると考えている。現場からの早期洋式化を望む声は把握しており、別の改修方法も検討していきたい。

## 社会福祉施設の防火対策の推進について

## 建設事業者の経営実態把握は

原 和世 議員 (会派みらい)

**Q** 建設事業者の減少がもたらす懸念は何か。また、建設事業者の経営実態を把握する必要があると考えるがどうか。

**A** 土木関係の業種では事業者数は減少しており、地域社会の維持に不可欠な災害対応、除雪、維持補修などが持続できるよう、地域を熟知した地元建設事業者の存続と担い手の確保が課題である。関係する部署や機関と連携して建設事業者の経営実態の把握に努め、建設業の実態や、建設に関する予算の配分等も十分考えながら総合的に対応していく必要があると考えている。

## シードル特区(果実酒特区)の認定を受ける考えは

岡田 倫英 議員 (会派のぞみ)

**Q** シードル振興を起点として様々な効果が期待できるが、シードル特区の認定を受ける考えはあるか。

**A** 構造改革特区制度により、果実酒については特区認定を受けることで、製造免許の取得に必要な最低製造量基準が緩和される。これにより生産者は、状況に応じて製造量を増やしながら販路を開拓し、経営を軌道に乗せていくことができる。市としては果実酒特区の認定を受けるよう、今年度の申請に向けて準備を進める。

## リア時代に向けた地域資源の活用について

## 災害時における受援体制、支援体制は

木下 徳康 議員 (会派のぞみ)

**Q** 災害時相互応援協定を結ぶ自治体とは、平常時の顔が見える関係が大切だと考える。自治体の防災担当者間のみならず、市民同士への交流へ発展させる考えはあるか。

**A** 協定先の自治体や企業とは、平常時に担当者同士の情報交換の機会等を設けて顔が見える関係の維持に配慮している。市民間でもそのような体制を構築しておくことは好ましいと思う。過去には渋谷区や都内自治体で住民同士の交流があった。そのような例も参考にしながら、交流できればと考える。

## (仮称)天龍峡大橋に関して

## 高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の進捗状況と方向性は

福澤 克憲 議員 (市民パワー)

**Q** 飯田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の次期計画策定に向けた課題と、介護職場の人材確保・育成をどう考えるか。

**A** 次期計画で検討すべき課題の一つとして、特養の待機者の問題をどう捉えるかが非常に重要と考えている。待機者の解消に向け、介護職場の人材が離職しないための取り組みと、新たな人材確保が重要と捉え、関係機関等と調整を始めている。今後の取り組み方針は、第7期の策定計画の中で位置付けていく。

## 「飯田版」上質な子育て環境「づくり」について

## 中学校の職場体験の実施状況は

古川 仁 議員 (日本共産党)

**Q** 自衛隊への職場体験は好ましくないと考えるが、今年度実施があったか。また、その体験内容は。

## 今年度の職場体験には自衛隊への体験も含まれる。体験内容は、施設見学のほか、体力測定、個人・団体行動、ロープの結び方などである。教育委員会事務局の職員が事前に内容を確認し、また、体験する生徒に同行して実施内容を確認している。職場体験の実施にあたっては、体験場所の仕事内容、体験の意義やねらいを十分理解した上で体験先を決定し、目標をもって臨むことができるよう学校へ指導している。

## 飯田市の介護保険事業について

## 飯田市観光振興ビジョン推進の方向性は

湊 猛 議員 (会派のぞみ)

**Q** 新交通網を見据えた観光振興ビジョンにおける取り組みと今後の方向性は。

**A** これまでも農家民泊に代表される体験型観光や、まちなか、天龍峡、遠山郷といった地域資源を生かした観光振興を図ってきた。飯田市観光振興ビジョンに掲げる目指す姿に向け、20地区で取り組みが始まった「田舎へ還ろう戦略」などとも呼称しながら進めていく。地域への経済効果はもとより、地域の新たな魅力と誇りを発見していくと共に「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」に「受け入れてよし」を加え、新しい観光のあり方を追求していきたい。

## 防災の視点から障がい児や外国籍の子ども達への配慮は

小林 真一 議員 (公明党)

**Q** 写真や絵文字などで構成され、障がい児や外国籍の子どもにも、優しく楽しく防災について学べる「Lブック」を導入してはどうか。

**A** 障がいのある方が災害に遭遇した場合、まずは自分の方が身を守り、その後どう行動するべきかを事前に理解していることは大切である。施設等では、日頃か

ら分かりやすい絵の表示や、声掛けなどにも取り組んでいる。L1ブックの普及については、今後の啓発活動の中で研究し、参考にする。

■飯田市における健康寿命を延ばす方策について

「リニアを活かしたまちづくり戦略は」

井坪 隆 議員（会派みらい）

Q 「駅周辺整備」と「戦略的地域づくり」の関係が判然としないが、具体的にどう結び付けていくか。

A 現在、基本計画の段階までできており、基本設計において更に両者の結びつきの詳細を考えていく。右肩下がりの時代におけるまちづくりの在り方として、「拠点集約連携型都市構造」こそ、必要な姿と認識している。その中でリニア駅周辺は、広域交通拠点として位置付け、他の拠点とのアクセスをしっかり確保することが肝要と考える。

■市長の考える、地域自治組織・地域運営組織の在り方について

「リニア関連事業に伴う代替地確保の進捗状況は」

湯澤 啓次 議員（会派のぞみ）

Q 代替地が提供可能な時期はいつか。また、リニア関連事業に伴う買収時期に間に合うか。

A 用地の具体的な交渉や相談は、平成29、30年度に実施する物件調査後、土地評価が決定されてから始まるので、平成31年度を考えている。その段階までには代替地の公表を判断し、また、代替地整備区域の街区計画についても一定の方向を示せるよう準備を進める必要があると考えている。

■学童保育の抱える諸課題について

■全国的に注目を集める自然保育について

道の駅整備の考えは

清水 優一郎 議員（会派のぞみ）

Q 中山間地域の振興と、天龍峡の観光振興の拠点となる「道の駅」を整備する考えはあるか。

A 中山間地域の活性化に対しては、これまでも各地区の皆さんのご尽力により、それぞれの特徴を生かした取り組みを実施することで、地域の魅力を掘り起し、磨きをかけてきた。地域の特徴を生かして外貨を獲得し、循環させることができるような直売所の設置は、まずは中山間地域の皆さんの内から湧き出る気持ちが大切であり、そこから形を作っていくことについて、行政としての役割を果たしていく。

中山間地域の現状について

中小企業・小規模事業者が支援策を利用する場合の手続きは

永井 一英 議員（公明党）

Q 中小企業・小規模事業者への支援策を市が中心になって国・県等と連携し、ワンストップでサービスを提供できないか。

A 8月30日付けで設置した、飯田市新事業創出支援協議会「I-Port」は、既存の企業が新しい事業を起こす場合も対象になる。事業継承、新規事業、販路開拓など、事業者の様々なニーズにワンストップで対応するために、まず、関係する機関が連携することを出发点にしたい。「I-Port」でどこまでできるかを実際に見て、やりやすさの仕組み作りを現場から立ち上げていくようにしたい。

当地域の発信に「信州ブランド」を最大限に活かすべきでは

山崎 昌伸 議員（会派のぞみ）

Q シティプロモーションにおいて地名の発信は重要である。イメージや五感、

浸透度を鑑み、「南信州」ではなく「信州いいだ」として発信すべきと考えるがどうか。

A 地域イメージの浸透を図る名称・呼称を決めることが大切だと考える。「南信州」という名称は、これまで相当の期間、様々な機関で議論され、また使用されてきた。時間には限られているが、今後、地域を表す言葉・名称については、そうした取り組みの積み重ねや熱意を大切にしながら検討していく必要があると考える。

古墳文化保存継承活動への協働体制は

塚平 一成 議員（会派のぞみ）

Q 飯田古墳群の活用と、更なる整備が必要と考える。各地区への支援は。

A 国史跡となった飯田古墳群は、これまで以上に地域内外の方が訪れる場になってくると認識している。今後の古墳群の管理、保存、活用には、地域と行政が協働・連携した取り組みがより一層必要となる。13基ある古墳は、立地や所有形態が異なり、それぞれの対応が必要であるため、まずは「飯田古墳群を語る会」において協議し、保存活用計画の中で将来的な方向をまとめていく。

読書を支える市民活動への支援は

木下 容子 議員（市民パワー）

Q 録音図書をボランティアで制作している団体の機器購入や講習会参加などに、支援はできないか。

A 声の本の制作は非常に重要な活動と捉えている。制作過程では、時間がかかる吹き込みや、数回にわたる校正・編集を経て、大変なご苦労により作成いただいていることは承知している。図書館としても

研修のための講師に係る経費や、研修参加の交通手段確保等の支援を行っている。録音機器の支援については、団体のみなさんから詳しい状況をお聞きし、どのような対応が可能かしっかりと考えていく。

■行財政改革の推進について

ごみ袋の料金が上がるが、ごみの減量化に結びつけているのか

後藤 莊一 議員（日本共産党）

Q 他市と比べ、ごみ袋の料金が高いといわれる。ごみ削減を図りながら、ごみ袋の料金を下げられないか。

A 飯田市のごみ処理手数料は、ごみ処理施設の運営経費や処理量、排出者と市の負担割合などから決められている。一人当たりの排出量は、ほぼ一貫して減ってきており、ごみ処理有料化による削減効果は確実にあったと考える。ごみ袋が新しくなり、燃やすごみについては入る量が増えたり、一方で、手数料は据え置き、実質値下げとなっている。市民の皆様のごみ削減努力に応えられていると考える。

リニア中央新幹線について

学校教育環境における「学びの改革」の必要性は

新井 信一郎 議員（会派のぞみ）

Q 教育環境において、社会激変と少子化にどう対応していくか。

A 子ども達が変化の激しい時代を生き抜く力をつけるため、多文化共生社会を目指した教育の推進や外国語教育の充実、ICT教育の推進を展開していきたい。少子化に対しては、子ども達が、将来飯田に住みたいと思える教育が対策になると考える。具体的には、ふるさと学習の推進、キャリア教育の推進、高校生を対象とした地域人教育の推進に取り組んでいきたい。

■産業振興と人材育成の拠点整備について

■農業・農地等について ほか

# 総務委員会

9月15日に委員会を開催しました。  
委員会での審査について紹介します。

## 議案第71号

飯田市企業立地の促進に係る固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例の制定について

案件の概要  
国の法改正により、課税免除の対象となる業種の範囲を広くするために条例改正する。

## 課税免除となる企業の規模は

Q 現在市内には、企業の工場や店舗があるが、この改正では、それを増やす場合も対象となるか。対象となる企業の規模はどの程度のものか。

A 製造業だけではなく、商業施設、観光施設も対象となる。国と県が「地域経済をけん引している」と認めた事業を行っている中小企業が対象となる。

## 議案第72号

和解をすることについて

案件の概要  
固定資産税の課税誤りに関して、裁判上の和解をするために議会の議決を求めるもの。

## 今後、市として基準をつくる考えは

Q 当市には、5年より前の税の還付を行う基準がないとの説明だったが、他の市の状況はどうか。今後、飯田市として基準をつくる考えはあるか。同じ事案が発生した場合は、今回と同じ状況となるのか。



A 地方税法が定める5年を超えて還付することができるとする要綱を独自に定めている市もある。全国では、どのくらいの市が要綱などを定めているかは不明である。当市は、地方税法を尊重し、新たに要綱などを定める考えは持っていない。今後、同じような事案が発生した場合は、その都度対応する。

## 議案第94号

平成28年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について

永代使用料の還付理由は  
合葬式墳墓地の納骨規模は

Q 28年度には墓地管理の永代使用料の還付があったが、毎年発生することか。

A また、合葬式墳墓は7年経過し、合葬を希望する市民が増えたと思われるが、合葬式墳墓地の納骨規模はどのくらいか。

A 永代使用料の還付は毎年発生する。一例を挙げれば、転居する市民から「お骨も一緒に移したい」という場合である。

合葬式墳墓は、一つの納骨スペースに共同で埋葬しており、芳名欄に納骨者の記載がでなくなつたため、新たな芳名立てを整備した。今回整備した芳名立てに記載がでなくなつた場合には、次の合葬式墳墓が必要と考える。

## 議案第82号

平成29年度 飯田市一般会計補正予算(第3号)案

市有財産撤去工事(伐採工事)は  
地元の自治会からの要望か

Q 市有財産撤去工事費について、この伐採工事は地元の自治会から要望された工事か。

A 市有財産に隣接する住民からの要望とともに、地域へも確認を行った結果、伐採すべきであるということになったものである。

## 議案第88号

平成28年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について

シティプロモーション推進事業費について

Q 飯田の魅力情報パンフレクトブックへナー図鑑はどのように活用したのか。

A 27年度に5千部作成し、28年度に第二版として7千部作成した。飯田市をよく知ってもらうため、メディア関係者やフィールドスタディで飯田を訪れた人、移住定住の相談会に参加してくれた人等に配布したり、地元の子供たちに配布した。

情報セキュリティ対策事業費について

Q 社会保障・税番号制度のシステム導入にあたり、情報セキュリティがかなり厳しくなったが、国費の財源充当だけで賄えたのか。

A セキュリティ対策事業は国が定める基準を各自自治体を実施するという仕組みであるが、対策レベルは全国一律ではない。飯田市はかなり高度なセキュリティ対策を行ったため、国からの補助以外に一般財源も必要とした。

リニア地域づくり推進事業費について

Q 「交流居住支援の取り組みと訪日外国人受け入れに伴う調査実施」は新規事業であり、効果があったとの説明を受けた。今後この事業を継続するのか。

A 交流居住支援の取り組みは、28年度に取り組みで可能性が見えているため29年度以降も取り組んでいきたい。

外国人のインバウンド農家民泊受入れは、産業経済部や南信州観光公社と連携し、なるべく多く受け入れたいよう取り組みたい。

自衛官募集事務の費用の財源は

Q 自衛官募集事務の費用の財源は、どのようになっているか。

A 費用は全額、国からの収入である。

火葬業務委託事業費について

Q 下伊那北部火葬場が運営を始めたが、飯田市斎苑の状況はどのようになっているか。

A 下伊那北部火葬場ができたことにより、飯田市斎苑の利用件数は減少している。また、市内在住者が市外の火葬場を利用する件数も減っており、全体的に利用件数は減少している。しかし、暦の関係で、飯田市外の火葬場を利用しなければならぬ場合もある。

## 請願審査の結果

### 請願第2号

★請願者 飯田市職員労働組合

★執行委員長 小林 晋氏

■慎重な審査の結果 「採択」としました。

★請願の要旨

国に対し、地方財政の充実・強化を求め意見書を提出願いたい。

★委員会での主な意見

○自治体の事務事業の多くは国の法令に従って行われている。国は、自治体はその事業を行えるように、その財源を確保すべきである。また地方が真に自立するためには、地方財政の充実・強化は不可欠である。主旨が適当であることから、採択。

# 社会文教委員会

9月19日及び22日に委員会を開催しました。委員会での審査について紹介します。

■議案第75号ほか2件の議案は、隣接する3施設に指定管理者制度を導入するものであり、相互に関連があるため、一括議題として審査を行いました。

## 議案第75号

飯田市総合運動場条例の制定について

## 議案第76号

飯田勤労者体育センター条例の一部を改正する条例の制定について

## 議案第77号

飯田市勤労青少年ホーム条例の一部を改正する条例の制定について

### 案件の概要

飯田市総合運動場、飯田勤労者体育センター及び飯田市勤労青少年ホームに指定管理者制度を導入することに伴う条例の制定と改正。

Q 市民サービスの向上のために、開場時間を午前8時に繰り上げるべきと思うかどうか。

A これまで利用者から申請を受ける段階で、大会・イベントの準備など、必要に応じて特別開場制度で対応しており、午前7時30分に開場をする場合もある。

Q 市民ニーズをどの程度把握しているか。

A 今まで、利用時間の拡大などについて、スポーツ推進審議会や飯田市体育協会から要望されたことはない。



## 自由討議の実施

■この件に関し、委員会として議論を深めるために、議員間の自由討議を行いました。

### ★論点

- ①総合運動場の開場時間をどう考えるか。
- ②総合運動場及び隣接する2つの施設、さらには市内の体育施設等の開場時間、現行では午前8時30分としていることから、総合運動場の開場時間だけの話にとどまらないため、どう考えるか。

### ★自由討議での主な発言

- 指定管理者に変わる時なので、市民サービスを充実するチャンスであると考え。
- 地元の議員も、総合運動場の開場時間について、市民要望を聞いていない。
- 市民の声を大切にすべきではあるが、スポーツ推進審議会や飯田市体育協会との関係やスポーツをしない方の声も大切にすべきと考える。
- 市民のニーズとコストに関して、委員会としてまだ把握していないのではないかと。
- 現時点では、時期尚早と思う。現段階で、条例を修正する緊急性があるかは、疑問である。

### ★質疑の後、反対の立場で討論がありました。

■質疑の後、反対の立場で討論がありました。

### ★反対討論

少なからず、市民の意見もあるので、この施設の開場を8時30分とするのは、いかがなものかと考える。

■拳手採決の結果、賛成多数で可決しました。

平成28年度飯田市病院事業決算認定について

## 病院経営の現状と今後の見通しは

Q 医師不足の現状や今後の見通しは。

A 全国的な医師不足の中において、当院は確保するための努力をしている状況ではあるものの、分娩や救急などに関しては、厳しい状況であり、引き続き確保に向けて努力していきたい。

Q 赤字決算になった原因が人件費の増加とのことだが、医師や看護師の確保のため、さらに人件費が必要になると思うが、どのように考えているのか。

A 人件費や医師を減らすことは考えていない。信頼される医療に取り組むことにより入院患者を増やすとともに、地域包括ケア病棟にも取り組むなど収入確保に努めたい。さらに経費削減にも努め、持続可能な病院経営を行っていきたい。

## 議案第88号

平成28年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について

## 介護ロボットの導入状況は

Q 介護ロボット導入促進事業に関して、導入した施設の実態と今後の市の考え方は。

A 施設内の見守りセンサーやアシスト機能付きの歩行器等が導入されている。介護者の負担軽減に効果があると考えているが、導入実績が少ないこともあり、市単独の補助は検討していない。

## ワークライフバランスをどのように推進していくか

Q ワークライフバランスは、重要なテーマになってきているが、今後の考え方は。

A 事業者のワークライフバランスに対する理解を推進することは重要であり、男女

共同参画課等とも一緒になって、より効果的に取り組めるように検討していきたい。

## ICT教育の機器の整備目標は

Q 情報通信技術活用教育推進事業に關し、ICT教育の機器として何をどの程度整備していくのか。

A 30年度までの目標として、小学校中学年以上の各クラスには電子黒板を設置し、それと連動して使うタブレットを配置したい。タブレットは、32年度までには、最低でも4人で1台を使えるような環境整備を目指している。

## 請願審査の結果

### 請願第3号

★請願者 飯田市学校教育職員組合

■慎重な審査の結果 「採択」としました。

### 請願の趣旨

国に対し、「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める意見書を提出願いたい。

### 請願第4号

★請願者 飯田市学校教育職員組合

■慎重な審査の結果 「採択」としました。

### 請願の趣旨

国に対し、国の責任による35人学級推進と教育予算の増額を求める意見書を提出願いたい。

### 請願第5号

★請願者 飯田市学校教育職員組合

■慎重な審査の結果 「採択」としました。

### 請願の趣旨

国に対し、複式学級の編制基準の改善及び教職員定数増を求める意見書を提出願いたい。

# 産業建設委員会

9月20日及び25日に委員会を開催しました。  
委員会での審査について紹介します。

## 議案第99号

平成28年度飯田市水道事業決算認定について

### 将来の経営の見込みはどうか

**Q** 近年水道使用料の改定も行われていないが、損益計算書等からも、比較的安定した経営状況がみて取れる。簡易水道事業も公営企業法の適用を受け、29年度からは会計統合をしたが、水道料金や、将来の経営の見込みはどうか。

**A** 水道事業は、現在安定した経営ができているが、簡易水道事業を会計統合したことからも、今後ますます経営に留意していく必要があると考えている。平成28年度に、29年度から38年度まで10年間の水道事業経営戦略を策定したが、現在の試算では35年度に赤字となる可能性がある。今後は3年ごとの経営戦略の見直しと公表を予定しているが、あわせて、水道料金の検証など実施し、引き続き安定経営を図る。

## 議案第88号

平成28年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について

### 技能労働団体等と連携した組織の立ち上げの現状は

**Q** 技能技術労働者の確保・育成の点から、技能労働団体等と連携した組織の立ち上げ準備会を開催したとのことだが、現状は、

**A** 準備会は2回開催し、「高齢化」、「後継者不足」、「賃金が安い」などの理由か



ら、技術の継承ができないとの課題が共有された。課題解決に向け、作業部会を立ち上げ、まずは、できることから取り組むことが確認されている。

### 結いターンキャリアデザイン室（人材誘導事業）の実績は

**Q** 結いターンキャリアデザイン室における、相談内容と実績は。

**A** 昨年度の相談件数は120件余りであり、そのうちUターンでは約30人が、Iターンでは約20人が当市に移住した。相談の主な内容は、働き場所、住む場所の2点であり、1回の相談では完結できないため、相談内容等が解決するまで伴走型でサポートしている。東日本大震災以降、都会の若年層を中心に、地方における働き場所や、住む場所を求める回帰志向が強くなってきている。こうした流れを取り込みながら、相談の拡充を図っていききたい。

### 農産物新マーケットチャレンジ事業の進捗状況は

**Q** 事業内容に、アウトバウンドインバウンドとの連携があるが、事業の進捗状況は。

**A** この地域の農産物を海外で展開するためには、あわせて、海外からこの地域を訪れていただく取り組みとの連携が必要だと考えている。昨年度はアジアでの市場調査を行った段階であり、観光分野との連携した協議には至っていない。まずは、農産物の販売先を海外へ展開する可能性の検証を行う。様々なネットワークを駆使する中で、どのように海外誘客に結び付けていくかは、これからの取

組みの課題である。

**Q** これまでも同様な取り組みがあったことから、行政には、この点のノウハウの蓄積が少ないと思う。事業推進に関しては、民間事業者の役割と、行政の役割と関わり方を明確にしたうえで取り組む必要があると考えるが、どうか。

**A** この事業は、農協とも連携し実施している。流通等に関しては農協や経済団体等の専門家に任せることも必要であると考えており、今後そのような視点から事業推進を図っていききたい。

### 竜西地区の農作物被害対策は

**Q** 竜西地区ではサルによる農作物被害が増加しているが、今後の対策をどう考えるか。

**A** 現在は、説明できる計画等は整っていない。費用的な面からも、全面的な対策整備には時間を要すると考えている。信州大学の協力をいただくなかで、サルの行動調査等行っており、そこで得られた知見なども参考に、地域からの要望にあわせて、侵入防止柵の設置や、捕獲檻の設置などの対策を組み合わせ、被害減少に努めたい。

### ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの評価は

**Q** この事業は、第5次基本構想後期計画の施策において、「新しい力による新しい産業づくり」に位置づけられていたが、この視点からのツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの評価は。

**A** ツアー・オブ・ジャパンが国際大会であることから、シティプロモーションとして世界へ向けての発信、また、企業誘致などに際し、国際大会を開催できるポテンシャルを持った市であることを紹介できる点などから、施策へは間接的ではあるが支援、貢献を果たしていると考えている。一方で、地元観光事業者を元気づけると

いった点からは、実施体制なども含め、見直し検討の必要性がある。

### 飯田の木で家を建てるプロジェクト事業の今後は

**Q** この事業は、飯田市産材のPRと、利用促進を図ることで、森林整備につなげていくことを想定し事業推進していることだが、目的や目標の規模をどこに想定しているかはつきりしない。費用対効果の面も含め、どう考えるか。

**A** 理想としては、市内で建築される家がすべて飯田市産材で賄われることがあげられるが、現実には難しい。指摘の点は、市としても検討を進めており、事業の見直しにつなげたい。

### 新産業クラスター事業（メディカルバイオ）の進捗状況は

**Q** メディカルバイオクラスターの形成支援として、医療専門家の配置をしたが、この事業の進捗状況は。

**A** メディカルバイオクラスター事業では当初、高度な技術による開発を目指したが、法の規制など製品の事業化には課題が多い。そのため現状は、病院との連携による製品開発を目指している。当地で開発された製品も、すぐに同様な製品の開発がされるなど、産業として難しい面があるが、事業者の取り組みを支援していく。

### 「道路整備予算の拡充及び道路整備事業に係る補助率等の高上げ措置の継続等を求める意見書」の提出

道路整備事業に係る国の補助率等の高上げ措置は、平成29年度までの期限措置となっており、現在のところ国においても延長の決定がない。道路事業における財政負担の増加は、結果として道路整備の遅滞に繋がるなど影響も大きいことから、措置の継続を求める意見書提出について動議が提出され、採決の結果、可決しました。

# リニア推進特別委員会

9月26日に委員会を開催しました。  
委員会での質疑等の様子を紹介します。



リニア中央新幹線計画の現状と取り組みについて、次の二項目の説明があり、その内容について協議をしました。

①リニア駅周辺整備の基本設計の進め方については、7月20日に開催された第1回リニア駅周辺整備デザイン会議の報告を含めた説明がありました。

★主な質疑

**Q** 高架下の空間利用について、地元の裁量はあるのか。また、JRとどの程度詰めているのか。

**A** 高架下空間は、2千平方メートル程度を利用可能と想定しており、これまで公益施設や魅力発信施設を検討してきた。  
JRとの契約等の調整はこれからである。

**Q** デザイン会議では、新しく委員となった北川原教授が「大地から湧き上がってくるような形をイメージしたい、地域の皆さんの心の中にあるものを生み出していきたい」との話があったが、今後、どのようなプロセスを経て議論を積み上げていくのか。

**A** 学識者を含むデザイン会議の協議だけでなく、地元・地区・地域、市民説明会や伊那谷自治体会議などの広域的な組織からのご意見もしっかりと踏まえ、議論を積み上げていきたい。

**Q** 基本設計のスケジュールとして、ワークショップや市民説明会をどの程度の回数や頻度で考えているのか。

**A** 回数は未定だが、今年度内の開催を予定しており、どのような体制で行うのが良いか検討を始めている状況である。

**Q** 現在、非常に大事な時期に入ってきており、地域の皆さんと知恵を出し合っていて、寄り添いながら、様々な意見を共有していくことが必要である。今後の事業スケジュールの中には、『夢のある大きな視点』と『住民の皆さんに寄り添う細心の視点』の両方があり、設計する側の立場がこの二つの視点を切り離さないで、確認していく必要があると考えるがどうか。

**A** 移転をされる方や新しい地域として地域づくりを担っていただく住民の方々の意見をお聴きしながら、新しい地域づくりに向けて取り組んでいく必要があると考えている。地域から出されている様々な課題をお聴きしながら、しっかりと協議をしながら進めていきたい。

**Q** 駅周辺整備基本設計のプロポーザルに参加する企業に地域的な条件はあるのか。

**A** 一般公募型のプロポーザルであり、全国の企業が対象である。

**Q** 駅周辺整備基本設計のスケジュールは。

**A** 基本設計は、平成30年度末を目指して案を確定していきたい。

②上郷地域用地関係者組合準備会については、8月8日に行われた「第1回上郷地域用地関係者組合準備会」の説明がありました。

**Q** 組合設立の前に準備会を組織する必要は何か。

**A** 用地関係者組合は、大規模な事業において土地評価の公平性・公正性・透明性を確保するために設立をするものである。準備会は、その前段で組合設立のための準備をしていくものである。

**Q** 地元への情報不足が不安やストレスの原因になっていると思うが、どう認識しているか。

**A** また、定期的な情報発信が必要では。

**A** 住民の方への説明対応や情報発信に十分に注意していきたい。

**Q** 座光寺地区での準備会の見通しは。

**A** 現在、役員の方を中心に準備会設立に向けて協議を進めており、近く準備会を設立したいと考えている。

**Q** 移転対策の一環として、代替地の検討エリアの空き家調査はしているのか。

**A** 現在は農地を中心とする土地の協議を進めており、空き家の調査はしていない。今後、移転される方の意向を把握しながら、目を向けていきたい。

議会報告会

各ブロックの代表者が市長に報告した

今回は竜東、北部ブロックの報告会の様子を写真で紹介いたします。西部、遠山、飯田5地区、中部ブロックの様子は次号でお伝えする予定です。



竜東ブロック（下久堅、上久堅、龍江、千代）



北部ブロック（座光寺、上郷）

# 議会による行政評価・提言

本年度は、「いいだ未来デザイン2028」の実施初年度にあたり、現時点での評価ができないことから、28年度まで取り組んだ第5次基本構想後期基本計画から22施策を抽出して実績の評価を行いました。その評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対し、提言をまとめ、9月28日に市長に提言を行いました。

提言の一部を紹介します。

■詳細は飯田市議会公式ウェブサイトを御覧ください。  
<http://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/>



市長への提言の様子

委員会名	第5次基本構想後期基本計画 施策の評価	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」 への提言
総務委員会	2-5 共に歩む社会づくりの推進	<p><b>基本目標9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略計画に「女性」の文字がない。「誰もが」という言葉ですべてを包含するようだが、「女性」の文言を入れられたい。</li> <li>あらゆる場面への女性が参画できる・するために「何をすべきか」について研究を進められたい。</li> <li>市民に対して、「共に歩む社会づくり」のための学習の場（慣習やしきたりの見直しも含めて）の提供に努められたい。</li> <li>外国人住民が飯田市内で生活するための知識や常識を習得し、かつ居住している地域のことを学習しながら地域住民と交流を進められる場の創出を検討されたい。</li> <li>公共施設の多言語表記による外国人対応をさらに進められたい。</li> </ul>
	<p>■この施策全体の議会の評価</p> <p><b>評価</b> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">B ある程度進んだ</span></p> <p>■施策に対する市の課題認識・方向性(有効策)は概ね正しい</p>	
社会文教委員会	3-1 心と体の健康づくり	<p><b>基本目標6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査の結果などのデータベースを活用し、市民への「見える化」を進めることにより、市民の健康づくりに対する意識を高めるよう取り組むべきではないか。</li> <li>特定健診の受診率向上につなげるため、健康づくりを自治組織等の地域活動として取り組んではどうか。</li> <li>男性が高齢化すると外出機会が減る傾向がある中で、諸活動への参加を促し、外出機会を増やすよう取り組んではどうか。</li> </ul>
	<p>■この施策全体の議会の評価</p> <p><b>評価</b> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">C あまり進まなかった</span></p> <p>■施策に対する市の課題認識・方向性(有効策)は概ね正しい</p>	
産業建設委員会	1-1 支え、育む産業基盤づくり	<p><b>基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「I-P o r t」はインキュベート機能であると同時に、内貨循環を高める役割であることを前面に出すべき。設置がより広く認識されるとともに、しっかりと活用されるための体制づくりを進められたい。</li> <li>企業誘致や、起業支援に繋がるよう、空き店舗等も含めたいわゆる産業用地に関する情報を整理し、発信していく体制づくりに取り組まれたい。</li> <li>若者が帰ってこられる産業をつくることを目標とするならば、「若者の志向する産業(就職口)とは何か」を捉え、地域産業の実態との乖離等を勘案し、その上で政策的に何を支え、育むか取り組まれたい。</li> </ul>
	<p>■この施策全体の議会の評価</p> <p><b>評価</b> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">C あまり進まなかった</span></p> <p>■施策に対する市の課題認識・方向性(有効策)は概ね正しい</p>	

# 常任委員会で管外視察を行いました



福島市での視察（総務）

## ◆総務委員会 6月27日(火)～29日(木)

### 調査項目

- ①再生可能エネルギーの取り組みについて (福島県福島市)
- ②移住定住環境整備事業について (岩手県一関市)
- ③東日本大震災における後方支援について (岩手県遠野市)

## ◆社会文教委員会 7月4日(火)～6日(木)

### 調査項目

- ①周南市もやいネットセンター推進事業について (山口県周南市)
- ②国保医療費適正化に向けた取り組みについて (広島県呉市)
- ③減塩生活による健康増進、健康寿命延伸への取り組みについて (広島県呉市)
- ④子育て応援施策11のカギについて (兵庫県相生市)
- ⑤学校教育の情報化推進事業（ICT教育の推進）について (兵庫県姫路市)



周南市での視察（社会文教）



小松市での視察（産業建設）

## ◆産業建設委員会 7月11日(火)～12日(水)

### 調査項目

- ①こまつ・アグリウェイプロジェクトの取り組みについて (石川県小松市)
- ②金沢クラフト・ツーリズムの取り組みについて  
金沢市の観光の現状について (石川県金沢市)
- ③クリエイタープラザ桜クリエの取り組みについて (富山県南砺市)

## 政務調査研究報告会

政務活動費を活用し、29年5月から9月までに実施した各会派の調査研究の概要を掲載します。

9月28日には、政務調査研究報告会を第2委員会室で行いました。

■詳細は飯田市議会公式サイトをご覧ください。  
<http://www.city.iida.lg.jp/>

### 会派みらい (3人)

■実施日 8月21日(月)～23日(水)

#### ■調査事項等

- 「花巻朝ごはんPJ」について (岩手県花巻南温泉峡)
- 域学連携事業「あじがく」について (青森県鱒ヶ沢町)
- どさんこミュージアの体験観光プログラムの開発・集客及びブランド化について (北海道どさんこミュージゼ株)

### 市民パワー (2人)

■実施日 8月3日(木)～5日(土)

#### ■調査事項等

- ファシリティマネジメントについて (岡山県倉敷市)
- 百年の森林構想について (岡山県西粟倉村)
- 1/0村おこし運動、森のようちえんについて (鳥取県智頭町)

### 会派のぞみ (13人)

■実施日 7月26日(水)～28日(金)

#### ■調査事項等

- 救急隊用音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」について、消防“ホッと”インフォメーションについて、防火防災教育について (北海道札幌市)
- インバウンド施策（観光）について (北海道二セコ町)
- 商店街主導の「ガーデンギャラリー」 (北海道恵庭市)

### 公明党 (3人)

■実施日 7月25日(火)～27日(木)

#### ■調査事項等

- 相模原市道路通報アプリについて (神奈川県相模原市)
- 介護ロボットの導入支援について (神奈川県大和市)
- 墨田区の中小企業振興について (東京都墨田区)
- ICTの活用について (東京都内田洋行)

### 日本共産党 (2人)

■実施日 7月11日(火)～12日(水)

#### ■調査事項等

- 震災復興その後と防災について (福島県南相馬市)
- 全国初となる大型木造耐火の文化ホール「南陽市文化会館」について (山形県南陽市)

# 議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



## ～文化による地域貢献の可能性～

つかだいら かずなり  
**塚平 一成**

表現活動が好きで東京横浜で働いていた頃は演劇活動に励み、人形劇団のお手伝いもしました。歌もボーカスクールに通った時期もあり、あるシンガーソングライターの方より「一緒に組んで活動しないか」とお声をいただいた事もありました。一昨年リターンして介護現場の当事者として地域福祉に携わっていますが、介護に深く関わるきっかけも歌や演劇でした。福祉関係の方から「是非介護施設等で歌って」と言われ、歌のボランティアや介護問題啓発の一人芝居を作り演ずる等の活動の中で関わりを深めました。文化活動は人の繋がりを深め、生きがいをもたらします。飯田の文化要素を活かした地域貢献の可能性を引き出したいと思います。私は今年もいいだ人形劇フェスタに続き11月の伊那谷文化芸術祭にも出演予定です。

これからも地域での文化芸術活動を通じて飯田を盛り上げていきたいと思ひます。



## ～犬と共に子供たちの成長を願う～

たけくら けいし  
**竹村 圭史**

「犬をどうしても飼いたい！」という子供たちの強い希望に押され、犬を飼うことに対する心構え(決意)をしっかりと確認し、6月10日に妻の実家近くで生まれた生後約2か月の柴犬(メス)が我が家の新しい住人(?)として仲間入りしました。

今現在、子供たちは「犬を飼えた」とこと「かわいい」ということで満足している感じがします。しかし、犬を飼うということは単に「かわいい」だけでなく、自分たちの都合に関係なく食事や排せつ等の世話をすることの大変さや、人間よりも寿命が短いゆえに否応なしに突き付けられる「死」という現実を受け入れる心の醸成等々、犬を通じてこれから大人になっていく子供たちが将来必要となるであろう学びや身につけることがたくさんあるのではないかと思います。

これからいろいろなことが起きることと思ひますが、子供たちも柴犬と一緒に大きく成長していつてもらいたいと願うところです。



市制施行50周年を記念して、昭和62年10月に埋められたタイムカプセルが開封されました。議会の封筒の中には、当時の平沢一議長からの手紙や活動記録などがありました。

## タイムカプセル開封 30年の時を超えて

- ◆ 議場の席のレイアウト、演台の配置など良くなっている。
- ◆ 身近な話題、未来の課題、様々な議論があり、心強く感じた。
- ◆ 本会議、委員会とも個人、団体で自由に傍聴いただけます。
- ◆ ぜひ傍聴にお越しください。



**議会中継をしています** 本会議の様子は飯田ケーブルテレビデジタル714chで中継しているほか、一般質問の様子はインターネットによるオンライン動画配信サービスで中継しています。ぜひご覧ください。  
<http://www.city.iida.lg.jp/>

### 編集後記

第3回定例会では前年度の決算審査を行い、審査の上認定しました。また市の施策について市議会として行政評価を行い、市長への提言を行いました。10月には市内6会場で議会報告会を開催し、多くの皆様にご参加をいただき幾多のご意見を頂戴しました。この場を借りてお礼申し上げます。いただいたご意見を今後各委員会で協議し、政策提言に繋げ、これからも市民の声が反映される議会づくりに取り組んでまいります。皆様からも是非、忌憚(きたん)のないご意見をお寄せください。

### 議会の動き(予定)

- 議会への請願・陳情の締め切りは11月22日(水)午後5時です。議会事務局へご提出ください。
- 第4回(12月)定例会は11月28日(火)開会です。

### 広報広聴委員会

委員長	新井 信一郎	副委員長	古川 仁
委員	岡田 倫英	塚平 一成	小林 真一
	熊谷 泰人	木下 容子	原 和世